

子宮頸がん 予防ワクチンが使用可能に

子宮頸(けい)がんは、HPV(ヒトパピロ - マウイルス)の感染で起こります。このHPVに対するワクチンを接種して、子宮頸がんの発生を減らすことができるようになりました。

子宮頸がんをおこすHPVは約15種類あるといわれていますが、現在使用されているワクチンは、この中で代表的な2種類のHPVに対するものです。子宮がんになった人の6割が(若年層は8割)が、この2種類のHPVに感染によるものです。ワクチン接種によって、完全に子宮頸がんが防げるわけではありませんが、2種類のHPVによる子宮頸がんは、ほぼ防ぐことが可能です。ただし、ワクチンを打っても、すでに感染したHPVを排除する力はありませんので子宮がん検診は必要です。

ワクチン接種は、10歳以上の女性が対象で、推奨年齢は11歳~14歳までとなっています。年齢の上限はありませんが、将来子宮頸がんになる可能性とワクチンの費用とを比較すると、45歳くらいまでに接種する意義があると試算されています。HPVワクチンの副作用はほかのワクチンと同様で、注射部位のかゆみや痛み、腫(は)れのほか、注射後の気分不良もまれにあります。

このワクチンは、値段の高いのが難点です。1回の費用は1万8000円~2万円で、計3回の注射が必要です。ワクチンの効果は20年持続すると言われています。接種についてはかかりつけの医師に相談してください。

平成22年10月

大槻 芳朗